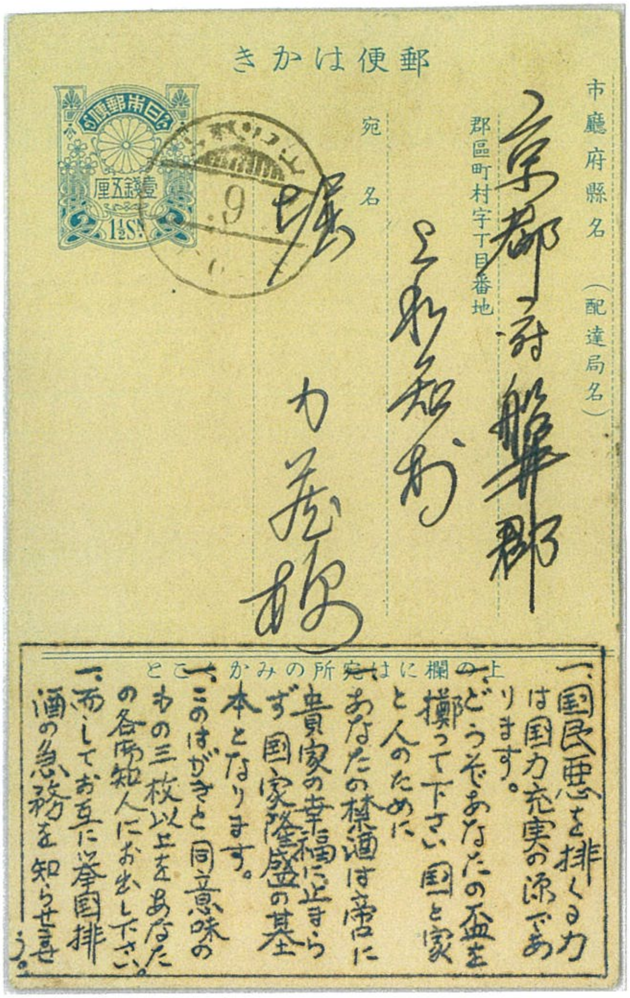


おそらく大正13年か14年に、山口県下から差し出されたはがきです。「国民悪を排(おしの)くる」「盃を擲(なげう)って下さい」など勇ましい文言が並んでいますが、最後に「挙国排酒」と言われては愛飲家の方は黙っておられないでしょう。要するに断酒を勧めるはがきなのですが、裏面を見ると「世はエデンの園」「天ツみ國をさながらに」という言葉が印刷されていて新興宗教団体が作った感があります。また、同意味のはがきを３枚以上出せ、とあるのは、昭和の時代にあった“不幸の手紙”を連想させるもので、あるいはこの手の迷惑モノの先駆けかもしれません。

（注:啻の読みは「ただ」）

（記：藤岡 靖朝〈日本郵楽会会員〉）